

## 今日のトピック 堅調に推移する原油価格（2019年2月） 協調減産等が奏功し、年明けから上昇傾向

### ポイント1 年初以降、価格は上昇傾向 協調減産等が奏功

- 北米の代表的な原油価格であるWTI先物価格は、米中貿易摩擦の激化等から、2018年末は1バレル45ドル水準でした。しかし、1月以降は米中関係の改善期待や、OPEC加盟国及びOPEC非加盟国による協調減産期待により、原油価格は上昇傾向となり、足元では1バレル55ドル程度で推移しています。

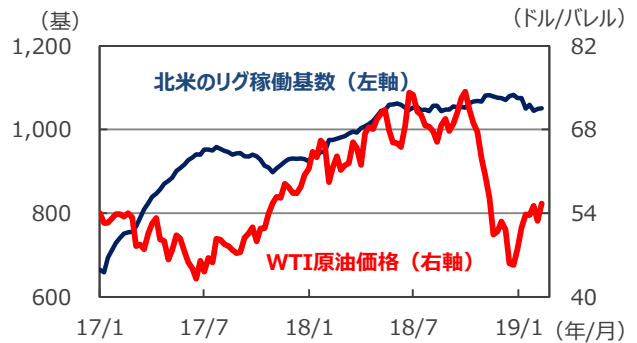
### ポイント2 サウジはさらに減産を表明 産油国での政情不安も上昇要因

- 2月12日に公表されたOPEC月報の2月号によると、OPEC加盟国の原油生産量は減少傾向となっています。1月の生産量は日量で前月比▲79.7万バレルの3,081万バレルでした。
- さらに、最大の産油国であるサウジアラビアは、3月以降に追加的な減産をすると表明しました。また、ナイジェリアでは月央に大統領選挙を控えて治安が悪化する中、選挙が延期されたことなどもあり、供給懸念が原油価格を押し上げています。

### 今後の展開 米中貿易協議進展の行方と 産油国の政情不安が鍵

- 同OPEC月報によれば、2019年の原油需要見通しは、全世界推計で前年比+1.3%の日量1億バレルと予想されています。OPEC加盟国の産油量が現状程度で維持されれば、今年の需給はバランスする見込みです。しかし、米国はベネズエラに対して経済制裁を発動しており、同国の生産量が減少することにより、需給がタイト化する恐れがあります。

【WTI原油価格と北米のリグ稼働基数】



(注) データは2017年1月6日～2019年2月15日。ともに週次データ。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【世界の原油需給見通し】

	2017年	2018年	2019年
<b>世界需要</b>	<b>97.3</b>	<b>98.8</b>	<b>100.0</b>
<b>供給</b>	<b>96.4</b>	<b>99.0</b>	<b>100.0</b>
非OPEC	64.4	67.2	69.4
OPEC	32.0	31.9	30.6
<b>需給バランス</b>	<b>▲0.9</b>	<b>0.2</b>	<b>0.0</b>

(注1) 需給バランス=供給-需要。▲は需要超過。  
(注2) 単位は百万バレル(日量)。  
(注3) 2017年は実績。2018年はOPECによる推定、2019年はOPECによる予想。ただし、2019年のOPEC生産量は全体の需給が均衡するとの仮定のもとでの弊社算出値。  
(注4) 四捨五入の関係で、OPEC、非OPEC供給量の合計は必ずしも全体の供給量と一致しません。  
(出所) 「OPEC月報」のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

- 米中貿易摩擦問題は、3月1日の交渉期限を前に協議が重ねられており、進展が期待されています。これにより、世界的に株価が上昇しており、世界経済の減速懸念が和らぐとともに、原油の需要増につながる考えられ、原油価格は今後も底堅く推移すると見込まれます。

**ここもチェック!** 2019年2月 7日 吉川レポート(2019年2月) 世界経済「軟着陸」のための3つの条件  
2019年1月30日 1バレル50ドル台を回復した原油価格(2019年1月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。